中学生へのクラスワイドな積極的行動支援（PBIS）の成果に関する研究

～　一次的援助サービスとしての規範行動の向上に向けて　～

発表ポスター例
（2016年度学校心理学会）

林田　篤伸
（福岡教育大学教職大学院）

西山　久子
（福岡教育大学教職実践講座）

問題と目的

★問題行動の減少にはエビデンスに基づいた指導が必要（平澤，2015）
★アメリカにおけるPBISの実践
★日本の小学校におけるPBISの考えに基づいた先行研究・実践

目的
- PBISの1次支援における実践が中学生の規範行動への意識を向上させるかを検証する。
- 生徒指導にエビデンスに基づいたポジティブな行動への支援の有効性を検証する。

※PBIS：Positive Behavior Interventions and Supports
ポジティブな行動指導介入サポートのこと。問題が起こらないように事前に学校全体で何ができるかという視点で考えていくプロアクティブな形の児童生徒への指導方針（バーンズ，2013）。

方法

研究デザイン

	9月	10月	11月	12月
実践群	質問紙	積極的行動支援 あり		質問紙
協力群	質問紙	積極的行動支援 なし		質問紙

対象

公立中学校２学年170名
実践群：２学級
協力群：３学級

質問紙

事前：9月
事後：12月
規範行動自己評定尺度
（山田ら，2013）
自己有用感尺度
（栃木県総合教育センター，2015）

主な実践内容（報告者が実践群の担任に依頼）　実施時期9月～12月

行動目標の提示　チケットを用いた即時賞賛　クラスマネジメントカード

クラスマネジメントカード用フォルダー
教室に掲示し，担任が授業中に色を変える。

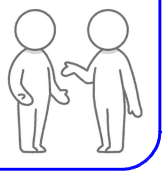
4つの合い言葉	行動基準	登下校	朝の会・帰りの会 学活
あいさつ	●ＴＰＯに合わせたあいさつ ●受け手が気持ちの良い挨拶	○校門で、自分からふさわしい言葉遣いと、声の大きさであいさつする ○顔見知りの地域の方に、自分からあいさつする	◎ふさわしい言葉遣いと、声の大きさであいさつする。
掃除	●自ら進んで清掃をする ●ものを大切に	◎自ら落ちているゴミをひろう。	

（長江ら，2013　Whiteley小学校における期待される行動一覧を参考に報告者が作成したものを一部抜粋）

行動目標マトリックス掲示物

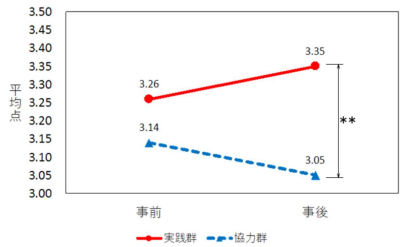
報告者の役割

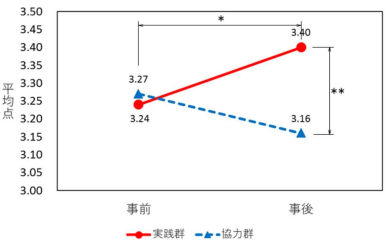
- 1次支援の実践を企画
- 実践で必要な用具の作成
- 質問紙調査の作成，実施，分析
- チケットの集計，分析
- 担任への面接
- 効果の検証
  など・・



結果と考察

（実践群　n=56　協力群　n=78）





●対人的規範向上
集団の中で助け合う意識の向上

●個人的規範遵守
個人で守れるルールへの意識向上

規範行動の下位尺度において，平均点の変化に有意差が見られた。
自己有用感尺度では，平均点の変化に有意傾向が見られた。

エビデンスに基づいた積極的行動支援が中学生の規範行動に対する認知の向上に効果があると示唆された。
ポジティブなエビデンスに基づいた行動支援が中学校での生徒指導に効果をもたらすと考えることができる。

●実践の課題

アメリカのPBIS
スクールワイド，
マルチレベルアプローチ
→ アメリカとはシステムや職員の専門性，慣習，役割分担が違う

エビデンスに基づいたポジティブな行動支援を文化の違う日本の生徒指導にどう定着させていくかが課題。

●研究の課題

実践クラスが２クラスであり，有効性を確かめるには少ない。
→多数の学級での実践を検証する必要がある。

●今後の方向性

学年職員単位での実践を通して
- よりよい実践のあり方について
- 実践が定着するための方策
- 2次、3次支援へこの実践がどのように接続可能かなどを検討していく。